

平成 28 年 10 月 28 日

報道関係者各位

10 月 29 日は世界脳卒中デー
日本脳卒中協会と世界脳卒中機構からのメッセージ

脳卒中は治療可能な病気
脳卒中治療体制の整備を！

公益社団法人日本脳卒中協会

世界脳卒中機構(World Stroke Organization)は、世界脳卒中デーに際し、脳卒中診療体制の整備を全世界に呼びかけています。

脳卒中は世界的に主要な死因であり、2 秒に 1 人が脳卒中を発症し、その多くは適切な治療を受けることができません。

しかしながら、幸いなことに、脳卒中は治療可能です。これが、10 月 29 日の世界脳卒中デーにお伝えしたいメッセージです。

脳卒中を早く発見して、病院に救急搬送し、専門的治療を受けることが大いに良い結果を生みます。

毎年、全世界で、1,700 万人以上が脳卒中を発症し、600 万人を超える人がお亡くなりになります。脳卒中を経験した人は 2,600 万人に上り、日常生活に支障をきたすような後遺症に苦しんでいます。6 人に 1 人が一生の間に脳卒中を経験するのです。

世界脳卒中機構理事長であるスティーヴン・デイビス教授は「適切なケアによって脳卒中を予防し、命を救うことができます。私たちは、脳卒中が誰にでも起こりうる病気であることを市民啓発し、脳卒中急性期医療体制を整備することを政府に求めています。」と述べています。

脳卒中後の運命を分ける 6 つの鍵

1. 早期発見

脳卒中の代表的症状は、突然生じる、片側の顔や腕の麻痺、言葉の異常（ろれつが回らない、言葉がでない、他人の言うことが理解できない）です。これらの症状が突然現れたら、すぐに救急車を呼んでください。**顔、腕、言葉ですぐ受診！**

2. 専門病棟での治療

脳卒中専門病棟での治療によって、後遺症を軽減できる可能性が1割増えます*。

*註) 死亡率が減り日常生活で自立できる可能性。出典:Stroke Unit Trialists' Collaboration, 2013.

3. 血栓溶解療法 (tPA)

適切に tPA による血栓溶解療法を受けると、後遺症をほとんど残さない*可能性が30%増えます。

*註) 症状がないか、症状があっても障害がない状態。出典: Emberson J et al, 2014.

4. 血栓回収療法

血栓回収療法が目覚ましい進歩により、動脈に詰まった血栓を取り除くことによって、その対象になる人のうち、半数*の方は治療によって後遺症が軽減する可能性があります。

*註) 出典: Goyal M et al, 2016.

5. リハビリテーション

リハビリテーションは治療に重要です。

6. 再発予防

再発予防のための治療と生活習慣の改善によって、再発リスクを減らすことができます。

世界脳卒中機構の次期理事長であるウェルナー・ハッケ教授は「世界脳卒中デーを機会に、世界中の人が適切な脳卒中治療を受けられるように、声を一つにして脳卒中と戦いましょう！」と呼びかけています。

詳細は世界脳卒中デーのウェブサイト www.worldstrokecampaign.org へ。

本件に関するお問い合わせ先:

(公社) 日本脳卒中協会事務局

担当: 中山 (Tel:06 - 6629 - 7378, Fax: 06 - 6629 - 7377, Email: info@jsa-web.org)

公益社団法人日本脳卒中協会について

脳卒中に関する正しい知識の普及及び社会啓発による予防の推進ならびに脳卒中患者の自立と社会参加の促進を図り、国民の保健、福祉の向上に寄与することを目的とし、平成9年3月に任意団体として設立され、平成17年3月に社団法人として認可後、平成24年10月1日に公益社団法人に移行しました。平成28年10月現在、46都道府県に48の支部があり、脳卒中を発症した患者さんやご家族を始め、医療従事者、行政・福祉関係者、一般の方々への情報提供や調査研究活動などを行っています。日本脳卒中協会に関する詳細は、ホームページ (<http://jsa-web.org>) をご参照ください。

世界脳卒中機構について

世界脳卒中機構 www.world-stroke.org は脳卒中との闘いを先導する世界的な組織です。2006年10月に設立され、予防、治療、長期的ケアを通じて脳卒中の世界的な重荷を軽減することを使命としています。世界中の個人および支援団体を含む脳卒中関連団体が加盟する世界的な団体で、世界保健機構 (WHO) と公式な関係のある唯一の脳卒中に関する国際的非営利団体です。